

牧師室から（4月19日）

私どもの海老名教会は国分寺台という所に建っているが、その地名の通り高台の上である。

こちらに赴任してまだ車がないので坂の下から歩いて登ると、この年になると結構きつい。ふと十字架を担いで丘を上られたお方のことに想いを馳せる。しかし坂の下から比べると台地の上は空気が幾分清明であるのを感じられるのがよい。

私はドイツ圏しか知らないが、教会が建てられているのは、天に近い丘の上であったり、また街中にある広場に面して市庁舎に対立して建てられていることが多い。一方は政治経済の権威で、他方は精神領域の権威であることを示している。

古い町ではあまり高い建物はないので、町の中心にある教会の尖塔を、あるいは丘の上の教会を市民は見上げて神を想うのである。教会は古より、苦しみの極みに人間に頼れないことを痛感したものが、神にのみ頼る、そのような人たちのための精神的支柱としての役割がある。私どもの教会も、このような折に、この地域の人たちあるいはこちらを訪れた人たちに、救いの道を示していきたいと思っている。

（鈴木淳一牧師）